

いつでも子どもが 子どもらしくいられる環境を。

子どもには自分で育つ力があります。

その力を様々な原因でうばわれている子どもがいます。

CPAOは、よりしんどい状況に置かれている子どもを中心に、

「まずはごはん！」からつながり、

子育てをサポートできる環境をつくるため、活動を展開しています。



認定NPO法人 CPAO

〒544-0003 大阪府大阪市生野区小路東6-5-4

☎ 06-6753-7204 ✉ info@cpao0524.org 📱 @cpao0524 🌐 https://cpao0524.org 🔍 ーばお 🔍

CPAOは、2018年9月7日付で 認定特定非営利活動法人（認定NPO法人）としての認定を受けました。

編集後記

機動性と足回りがこの団体の持ち味だと感じさせられた1年でした。「まずは子どものため」その最優先事項のために迅速な意思決定がなされ、コロナ禍ではその特性をフルに使い、社会の動きに即応して次々と実行に変えていきます。彼らの様子を思い出すとき、私はよく消防士が思い浮かびます。CPAOの消防士はごはんを持って駆け付けます。思い出すたび心強い存在です。この報告書を通し、少しでもこの団体に関わりたと思っていただける方が増えれば幸いです。（企画、編集担当：細貝由衣）

いつでも子どもが
子どもらしく

いられる環境を。



認定NPO法人 CPAO

ANNUAL REPORT 2020

これからの展望・活動報告



代表メッセージ

Message

2021年の現在も新型コロナウイルスによる困難な状況が続いています。CPAOの活動は、これまで以上に必要を迫られる状況になりました。

特にコロナを発端とした休校やソーシャルディスタンス、外出禁止の影響が子どもの心身に大きなインパクトを与え、コロナ以前からしんどい状況に置かれていた生活をさらにひどい状況に追い込んでいます。

子どもの“食べる”、“遊ぶ”、“学ぶ”といった様々な権利が奪われていく中、CPAOでは、どのような状況においても「いつでも子どもが子どもらしく」いられるように、栄養のある食べ物を届け話しをし、見守り、一緒に遊んで寝泊りし、そして暴力から守られ心身ともに健やかでいられるよう活動を止めることなく続けてきました。

CPAOでは、コロナ緊急サポートの食支援「ホットミールプロジェクト（宅食）」を学校休校とともに開始し、リスクを抱えながらも個別訪問に切り替え、コロナ禍でもつながりを作り続けました。

ご支援くださるみなさまのあたたかい気持ちを、ごはんを通してお届けし、「寝込んでいるのでお買い物お願いしていいですか?」「ずっと一緒に息が詰まるので、子どもを見てもらえませんか?」「使える支援はないでしょうか?」「申請書の手続きを一緒にしてもらえませんか?」と、次のサポートへとつなげることが出来ています。

ステイホームで負担の増した家事育児のサポート行うことで、少しでも時間的、精神的なゆとりが生まれ、子どもたちに息抜きや恩恵が生まれることを願いながら活動してきました。

保護者や若者の中には、コロナ禍で職を失う方が数多くおられました。以前であれば、派遣や日雇いなど、身分は不安定でもたちまちの収入を得られる仕事がありましたが、現在はそれすらない状況です。分断され孤立し、どこにも行き場がなく人間の尊厳が奪われていく、そんな方々を目の当たりにしています。

子どもたちの貧困に直結してしまう保護者の雇用問題に対し、私たちは新たに「CPAO WORKS /シーパオワークス」という就労サポートを立ち上げました。

CPAO WORKSでは、仕事を通じて社会とつながり直し、居場所を見つけ、夢や自己実現などをともに叶えていくことを目的としています。そうした取り組みが、尊厳の回復に向け必要なことではないかと考えます。

夢ややりたいことを一緒に実現していけることほど嬉しいことはありません。制度と自主事業を組み合わせ、継続の道を模索したいと走りながら考えています。

世界中が危機的状況に置かれ、誰もが生き方や人とのつながり方を変えざるを得ない状況になりました。使い古された言葉ですが、ピンチはチャンス。今後、新たな価値観がうまれてくるでしょう。その世界が、子どもたちにとって夢や希望が生まれ、生きやすいものになることを願いながら、活動9年目となりました。

さらにフットワーク軽く、しんどい状況に置かれている子どもや保護者の方々に安心して頼ってもらえる団体を目指し、活動を続けていきたいと思います。

みなさま引き続き、ともによろしく願いいたします。



徳丸ゆき子

認定NPO法人CPAO理事長
大阪子どもの貧困アクショングループ代表

大阪市生まれ。
NPO法人にて不登校、ひきこもり支援に従事したのち、2002年より国際協力NGOに所属。国内事業を担当。子どもの社会参画、子どもの貧困、東北大震災復興支援のスタッフを経て、2013年に現団体設立。2020年に第6回糸賀一雄記念未来賞を受賞。

活動概要

What we do

認定NPO法人CPAOは、生活困窮を抱える世帯の子どもたちを中心に、生活の支援を行ってきました。

「まずはごはん!」=食を通して子どもたちとつながり、親子の生活を丸ごとサポートすることで抱えている問題を共に乗り越え、子どもたちの生活に一歩踏み込んだ暮らしのサポートをしています。



まずはごはん!

食を通じたアウトリーチ（積極的につながりを作る活動）を行い、子どもたちやその保護者と関係性を築きます。緊急性が高い場合には、食品や物資の支援、パントリーなど個別に対応しています。



ごはん会



ホットミールプロジェクト



食品、物資の配達



パントリー

子どものニーズサポート



環境に左右されず成長や学びの機会を持てるよう、子どもたちのニーズに応え、居場所活動や学習支援、あそびの提供を行っています。現在はコロナの感染予防に合わせ、少人数で個別に活動中です。



あそびや学習支援



居場所活動



見守り活動



子どものニーズ調査



子どもの直接支援

相談・サポート事業



問題が複雑であれば背景からお話を聞き、解決を目指して問題に介入します。相談内容に応じて役所へ申請の際の同行や家事育児などの支援を行い、行政や民間サービスへとつなぎます。



相談対応、介入



同行サポート
(行政・医療・司法など)



ショートステイ



家事・育児サポート

NEW お母さんのエンパワメント

第二創業期の目玉



お母さん自身が本来持つ力を引き出し発揮していくことを目的として、環境整備や機会提供を行います。その第一弾として、CPAOの就労サポート事業をスタートさせました。自分らしい仕事を通じて社会参加していくことを目的の一つと捉えます。



就労サポート



やってみたいことを叶える/
お母さんの自主活動、
さまざまな学習、能力発揮

2020年の取り組み

Activity report 2020



コロナ緊急サポート

ホットミールプロジェクト（宅食）



宅食用クールボックスとお手紙を書くボランティアの方。
つながりが感じられるようお手紙を添えています。

従来の集合型（子ども食堂）から個別訪問型に移行し、
宅食を通して直接ごはんを届ける
『ホットミールプロジェクト』をスタートさせました。
この事業を食の提供だけでなくコミュニケーション手段として捉え、
必要な家庭に温かい食事や食材を持って訪ねることで、
コロナ禍においても個別のニーズに応じた
サポート実施につなげてきました。

データで見る2020年の活動

提供した食事、
宅食（ホットミールプロジェクト）

5,938 食

サポートした児童
および保護者の人数

1,303 人

撮影：隣る人工房

映画「隣る人」（2012年公開）を共に制作した稲塚由美子と刀川和也が立ち上げ運営するプロジェクト。言葉、音声、画像、動画等を駆使し、個人に光を当て、個を大切に記録活動を行う。表現行為を通して、時空をまたいで、人とつながり、また、人と人をつなげていくことを探求している。CPAOでは設立初期から活動記録の一部を担い、今後、協同の表現活動も企画していく予定。

Point 1 （ホットミールとともに） 食品・物資のお届け

家庭の状況に合わせ、企業や個人からご寄付いただいた食品や生活必需品を、ホットミールとともにお届けしています。寄贈品は、提供先のニーズと調整しながら、必要とされる方への適切な支援内容になるようお渡しします。遠方の方にもお送りしています。



Point 2 見守りから 家事・育児サポートにつなぐ

個別訪問で困りごとを把握することで、対象者のニーズにより的確に応えることができています。SOSを出しやすい環境を作れるよう定期訪問を行い、関係性を築けた親子には、コロナ禍で負担が増した家事・育児をサポートすることで家庭支援につなげました。



Point 3 毎週120食体制の立ち上げ

週3回・毎週120食の宅食作り体制に向けた新たな基盤づくりとしてセントラルキッチン整備、保健所の許可取得、運搬体制の整備、配送車内のコロナ感染対策を行いました。また梅雨の時期を見据え、車両内には冷蔵庫も設置しています。



循環型農業でホットミールは出来ている。

野菜づくりボランティアの小川さんのもと、CPAOでは循環型農業により野菜作りを行っています。CPAOの調理で発生した野菜くずや生ゴミを和歌山県にあるCPAO支部「はしもとベース」に持ち込み、小川さんがかき混ぜ肥料にしています。農薬や化学肥料を使わない野菜づくりです。子どもたちも小川さんと一緒に野菜を育てる経験を通じて、食の先に人のつながりがあることを実感し、食事を届ける際にも残さず食べてくれるようになっています。

現場からの声



和歌山県橋本市で畑・野菜作りの
ボランティアをされている
小川輝樹さん

小学生の頃に暴力に直面した経験があり、母がDVに耐えられなければこの世にいなかったというのが協力の根っこな。CPAOでは、農薬や化学肥料なしの野菜を提供しています。友人や遊休農地の管理をされてる地主さん、家族といった上手い繋がりがあればこそ、楽しみながら実現しつつあります。CPAOの皆さんが息子共々気にかけてくださることも、継続できている要因です。



ホットミールプロジェクト
利用中のお母さん

ホットミールプロジェクトと就労サポートでお世話になっています。お弁当が届くようになり、子どもは晩ご飯がとても豪華になった！と大喜び。成長期ってこんなに食べるんだと改めて思いました。ご飯と卵だけの日がほとんどで、寝る前にお腹を空かせていた子どもが、お腹いっぱい食べて夜もしっかり寝るようになりました。コロナで収入が半減していましたが、就労サポートでお給料を日払いで頂けるので助かっています。苦手だったエクセルも教わり仕事の幅も増えそうです。

2020 年の動き

コロナ禍の収束が未だ見えません。シングルマザーには非正規労働者が多く、厳しい雇用状況に休校措置が重なり、深刻な打撃を受けました。CPAOでは一斉休校の開始とともにホットミールプロジェクトを迅速に立ち上げ、支援体制を確保し、子ども食堂や学習支援、ショートステイなど、子どもたちが安心して生活できる環境を提供するため、早い段階から活動を再開させました。

社会の動き

2/26

大規模イベントの自粛要請

2/29

幼稚園と小中の臨時休校開始
(～3/13まで)

3/13

休校措置が春休みまで延長される。
(～4/8まで)

4/3

大阪市内では4/19まで
休校措置が延長される。

4/7

緊急事態宣言 発令、
5/21まで延長される。

1/13

二度目の緊急事態宣言 発令

2020

2

3

4

5

6

7

8

10

11

12

2021

1

2/28

CPAOでの子ども食堂や学習支援など活動中止。

2/28

緊急サポート「ホットミールプロジェクト」を開始

3/16

子どもたちの居場所活動、お泊り会など再開。

5月

保健所に許可申請をしキッチン整備。
宅食用の車両をリノベーションし冷蔵庫を設置。

6月

NHK「あさイチ」出演

6/20

保護者向けの居場所活動を再開。

7/7

子ども食堂再開、
隔週で少人数の二部制に。

8月

夏休みの間に少人数や個別のお泊り会を計11日間開催。
子育てなんでも相談会を再開、パントリーを実施。

10月

学習支援を再開。

10/11

就労サポートのモデル事業を開始

10/19

第6回 糸賀一雄未来記念賞 受賞

12月末

クリスマスディナー 120食、お正月のお節120食をお届け。

12/31

子どもたちの年末年始お泊りツアーを開催。

シングルマザーの方からの相談
相次ぐ。

相談の増加、相談内容が日に日
に深刻さを増す。

自粛解除と学校再開により、元
の状態を取り戻そうとする会社
と学校に対応しきれず追いつめ
られる報告が急増。

仕事が減り、収入が激減してい
るという相談が相次ぐ。サポー
ト依頼が全国から届く。

仕事がなくなった、見つからな
い、家賃や光熱費が払えない。
食べ物がなくなったという声が
例年より増して全国から届く。

家庭内の暴力、DVや子ども、
若者からの家出相談が増加。

CPAO の動き

データで見る2020年の活動

現場からの声

子どもたちとの活動回数

233回

相談件数

約1,200件

⚠ 前年よりも相談件数が増え、経済的な面で厳しい状況にある方のケースが多くなりました。生活保護につなぐことが増えており、この偏見ある社会の中で、尊厳の問題を考えざる得ません。



「CPAOさんはこんな時でもなんとかしはるんでしょう？」
コロナの状況になってすぐ、普段からサポートしてくださる方々から連絡が入りました。「食材あります」「調理やりましょうか？」使途はお任せしますと、緊急のご寄付をいただくこともありました。何ができるのか考え、休校発表と同時に始めたのが「ホットミールプロジェクト」です。活動9年目を迎えましたが、変わらないのは「何のため」「誰のため」という自問です。最も声をあげにくいところに届けとばかりに、最善を尽くすスタイルこそがCPAOであるとして、これからも続けていきたいと思ひます。

他団体との協働事業 Collaboration

CPAOでは他団体と協働することで、活動領域にとらわれず、必要な方に必要な支援をつないでいます。たくさん子どもたちが集まる子ども食堂の運営、地域への面的支援、専門団体を通じた政策提言など、協働により活動をスケールさせ、幅広い支援につなげています。



子ども食堂、炊き出し

地域の子どもたちに食事を提供するコミュニティの場として、活動場所やリソースのご協力をいただき、各地域で子ども食堂を運営しています。大人に向けた炊き出しも行っており、条件を問わず誰もが利用可能なオープンな場で手作りの温かい食事を提供しています。

ハピネスライフ × CPAO

「スーパキッチン（炊き出し）」



見守り活動

新型コロナウイルスの影響により児童虐待等のリスク発現の防止に向け、大阪市と協働し、子どもたちへの見守り体制強化を図りました。支援ニーズが高い子どもたちを定期的に訪ね、状況変化を把握し個別サポートにつなげています。

大阪市 × CPAO

「大阪市こどもの見守り強化事業」



地域支援

大阪生野区に暮らす子どもたちの家庭実態に有効な支援を進めるため、実践者、団体、研究者などの有志で「生野子育て社会化研究会」を設立しました。地域の面的支援をベースに、自治会や社会福祉協議会ご協力のもと、プレイパークなど遊びをメインにした活動を行い、地域全体へのアウトリーチにつなげています。

生野区子育て社会化研究会 × CPAO

「いくのこども食堂」「しゅくだいカフェ」「プレイパーク」など



調査&政策提言

現場の最前線で日々発生する困難や気付きをもとに、研究者や実践者と連携し、実態調査を行い政治へと声を届けています。地域社会で子どもの育ちを支える為の方法と費用を明確化させ、民間でできるところ・行政での制度化が求められるところを提言していきます。

（公財）あすのば × CPAO

子どもの貧困対策センター

生野区子育て社会化研究会 × CPAO

2021年の新たな取り組み

Next Step

シングルマザーと若者を中心とした就労サポート事業

CPAO WORKS

シーバオワークス

就労サポート事業「CPAO WORKS」のための活動拠点を新たに取得しました。

活動拠点は、お金を必要とせず誰でも定食が食べられるカフェの併設を予定しており、現在はCPAOの食事業を支えるセントラルキッチンとして稼働を始めています。

CPAOの掲げる「まずはごはん!」を支える食事業の担い手を雇用する独自の就労サポート事業として、CPAO WORKSをこの新たな活動拠点でスタートさせます。

シングルマザーや若者など、コロナで厳しい雇用状況にある人たちに向け、仕事を通して新たな関係づくりにつなげます。

CPAO WORKS新拠点 生野区で2021年4月よりプレ実施開始

CPAOのまずはごはん!を支える 職種と働き方

※仕事内容が希望と合致しない場合には他企業を紹介



働き方

フルタイム

パート

スポット
(単発)

※その人のニーズに合わせ、短期、中期、長期の中で働き方を選択できます。

CPAO WORKSの目的

- 1 経済的支援** 収入のある仕事で直接的支援に。また一般就労のためのブランクを埋める職業訓練の場。
- 2 コミュニティ** 仕事を通じた居場所、社会参加の場。
- 3 アウトリーチ** 仕事を通じてCPAOとつながりをつくる新たな関係づくりの場。

活動を支えてくださった皆さま

Supporters

CPAOの活動を支える企業・団体のみなさま

飛鳥食品 株式会社	一般財団法人 住野勇財団	一般財団法人中辻創智社	一般財団法人 浪速友愛会	株式会社 アプリズム
株式会社 SOLIO	子供の未来 応援基金	NOEVIR GREEN FOUNDATION ノエビアグリーン財団	Public Resource PRF パブリックリソース財団 Public Resource Foundation	Save the Children セーブ・ザ・チルドレン
赤い羽根 福祉基金 フードバンク 活動等応援助成	Shimmyo 真和苑	National Institution For Youth Education 国立青少年教育振興機構 「子どもゆめ基金助成活動」 体験の風を おこそう	日本労働組合 総連合会	認定NPO 法人 キッズドア
認定特定非営利活動法人 ウィメンズアクション ネットワーク	発 剛士 様	みてね 基金	SCRUM 有限会社スクラム	私と地域と 世界のファン

助成団体
(敬称略、50音順)

社会福祉法人中央共同募金会／一般財団法人泉北のまちと暮らしを考える財団／一般財団法人中辻創智社／一般財団法人浪速友愛会／一般社団法人にしなりプレーパークプロジェクト／大阪市生野区社会福祉協議会／公益財団法人淡海文化振興財団／公益財団法人ノエビアグリーン財団／公益財団法人パブリックリソース財団／公益社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン／子供の未来応援基金／社会福祉法人丸紅基金／社会福祉法人中央共同募金会／真如苑／大和ハウス工業株式会社／中央共同募金会／日本労働組合総連合会／認定NPO 法人キッズドア基金／認定特定非営利活動法人ウィメンズアクションネットワーク／みてね基金

賛助会員

個人

257名

法人・団体

12団体



財政規模にまだまだ課題感があります。
今年は基盤の安定化を目標とし、目指す社会の実現に共感・ご理解いただけるようホームページなど発信の改善を行うことで、さらに活動の輪を広げていきたいと思っています。

支援者の声



土屋春代さん

ネバリ・バザーロ
元代表

CPAOの皆さんにこれからもエールを送り続けます

2015年11月に最初に徳丸さんにお会いした時に伺ったお話を思い出しました。活動を始められたきっかけの悲しい出来事。徳丸さんの深い悲しみと強い怒りを感じました。それを原動力とされ、走り続ける中で出会ったたくさんの方たちの想いを受け止め、応えるために活動を深め、拡げ、続けてこられた8年間。弱者に寄り添おうとしない社会の仕組みの理不尽さに知らんぷりをせず、手を差し伸べるCPAOの皆さん。これからもエールを送り続けます。



濃添敬造さん

大阪鶴見ロータリークラブ
2020-2021年会長

子どもの貧困は将来にわたっての社会問題です

この20年で貧富の差が拡大し、コロナ禍でその傾向が顕著になっています。とりわけ子どもの貧困は将来にわたっての社会問題です。貧困の連鎖を放っておくことはできません。私たち、鶴見ロータリークラブは社会奉仕を迫及する団体です。いつもどんな奉仕ができるかを追求していますが、今回会員からの推薦でCPAOさんとお会いすることができました。CPAOさんのご活動に敬意を表し、応援できればと考えております。

会計報告

Accounting report

活動計算書

科目				金額	小計	合計				
Ⅰ 経常収益	1. 受取会費	正会員受取会費		110,000	1,241,000	35,923,359				
		賛助会員受取会費		1,131,000						
	2. 受取寄附金	受取寄附金		12,178,329	14,138,657					
		施設等受入評価益		416,000						
		ボランティア受入評価益		1,544,328						
	3. 受取助成金等	受取民間助成金		20,387,793	20,387,793					
	4. 事業収益	食事・食材提供事業収益		0	4,500					
出版・広報事業収益		4,500								
5. その他収益	雑収入		151,360	151,409						
	受取利息		49							
	Ⅱ 経常費用	1. 事業費	(1) 人件費	役員報酬		2,800,000	20,255,969			
給料手当				4,349,067						
法定福利費				949,402						
人件費計				8,098,469						
(2) その他経費			書籍購入費	9,000						
			新聞図書費	123,782						
			印刷費	2,950						
			地代家賃	169,867						
			水道光熱費	262,542						
			材料費	1,152,742						
			荷造運賃	774,919						
			通信費	155,694						
			保険料	390,890						
			学習サポート費	10,407						
			家庭サポート費	12,950						
			山村留学プロジェクト費	0						
			消耗備品費	1,389,780						
			里山体験費 (食材・消耗品以外)	87,122						
			修繕費	102,000						
			支払手数料	1,762,591						
減価償却費		2,411,843								
旅費交通費		343,120								
車両費		1,002,054								
雑費		32,919								
施設等評価費用		416,000								
ボランティア評価費用		1,544,328								
その他経費計		12,157,500								
2. 管理費		(1) 人件費	役員報酬	200,000	2,082,683					
			給料手当	217,933						
			法定福利費	67,814						
			人件費計	485,747						
		(2) その他経費	地代家賃	12,133						
			水道光熱費	18,753						
			通信費	11,121						
			管理諸費	1,284,219						
			減価償却費	172,275						
			旅費交通費	24,509						
			車両費	71,575						
			雑費	2,351						
			その他経費計	1,596,936						
						2,082,683	22,338,652			
			当期正味財産増減額						13,584,707	
			前期繰越正味財産額						10,214,596	
次期繰越正味財産額					23,799,303					

繰越正味財産額のうち、繰越金は次のプロジェクトに充当されます。
○次年度の継続活動資金
○新拠点のリノベーション工費
○車両購入のための長期借入金返済

MEMO

コロナ禍で活動が制限される中、ホットミールプロジェクト（宅食）としての活動継続が認められ多数の助成をいただきました。個別訪問を中心に行ったため、人件費や減価償却費、車両費などの経費が増額しています。次年度に向け、新たに始めるCPAOWORKSの拠点リノベーション費用やそれに伴う物品購入費用、継続活動資金などに繰越金が充てられます。



監査 徳武聡子

とくたけ司法書士事務所 / 司法書士

この活動計算書は会計帳簿の記載金額と一致し、特定非営利活動法人CPAOの収支が正しく示していることを認めます。

団体概要

About Us



設立 2013年5月25日
(2016年2月NPO法人格取得、2018年9月認定NPO法人格取得)

ビジョン しんどい状況におかれている子どもを、親丸ごとサポートし、子どもが自分で育つチカラを発揮できるようになること。

フルタイムスタッフ3名、非常勤スタッフ12名

役員

理事長	徳丸ゆき子
理事	隅田耕史（特定非営利活動法人フェリスモンテ／理事・事務局長）
理事	渡辺裕子（男女共同参画センター・情報アドバイザー）
理事	兼松徹（認定NPO法人CPAO・事務局長）
監査	徳武聡子（とくたけ司法書士事務所／司法書士）

これまでの歩み

2013.05	大阪子どもの貧困アクショングループ設立 天神橋筋商店街でアウトリーチや相談・サポート活動を開始
2013.12	大阪市西淀川区で、居場所活動を開始
2014.07	高槻市カフェcommonsで子ども食堂をオープン（2016.4まで）
2014.10	里山でのショートステイ事業を開始
2014.12	大阪市生野区松野農園で子ども食堂をオープン（2016.2まで）
2015.07	学習支援事業「しゅくだいカフェ」を開始
2016.02	NPO法人格取得
2016.06	生野区子育て社会化研究会を設立
2017.11	和歌山県橋本市の里山に活動拠点を取得
2018.04	生野子育て社会化研究会とのアウトリーチ事業「プレーパーク」を開始
2018.09	認定NPO法人として大阪市より認証
2018.12	新拠点設立のためのクラウドファンディングを実施
2019.04	生野子育て社会化研究会との協働で子ども食堂をオープン
2020.02	コロナ緊急サポート「ホットミールプロジェクト」を開始
2020.08	生野子育て社会化研究会との協働で相談会事業を開始
2020.12	シングルマザーと若者を中心とした就労サポート事業「CPAOWORKS」の活動拠点取得

これまでの主な
政策提言、調査活動

2013.07	シングルマザー 100人への当事者生活調査を開始 (2014.07まで)
2014.08	子どもの貧困アクション関西「自治体で国の対策よりもさらに良い施策を！」声明発表
2014.12	子どもの貧困解決に向けた共同声明を(公社)セーブ・ザ・チルドレン・ジャパンと発表
2015.07	国連・女性差別撤廃委員会に全国精神病患者集団とカウンターレポートを提出
2015.10	生野区の子どもの暮らし生活調査を実施
2017.11	大阪市子どもの生活に関する実態調査報告書」を踏まえ対策を進めてもらうための陳情
2018.11	大阪市議会に政府「児童虐待防止対策」を機能させるための民間支援者との協働を求める提言書を生野子育て社会化研究会として提出

これまでの主な受賞歴

2014年 近畿ろうきん主催 NPOアワード奨励賞
2015年 大阪商工信用金庫主催 大阪商工信金社会福祉賞
2020年 公益財団法人 糸賀一雄記念財団主催 糸賀一雄記念未来賞